

5班 世界水準の農芸品の生産力強化

課題	県が何をする	誰が	県が何をする	誰が	何を
新規就農者、担い手の確保、育成に向けた取組					
新規就農者の確保・育成	農業体験の場を高校生にはもちろんだが、小・中学校より若い世代の人たちに提供していくべき 農業関連の情報は、ネットだけでなく、パンフレットなども利用して発信していくべき	法人	農業高校だけでなく、普通科の高校に対しても求人などの情報を提供していく必要がある		
	新規就農者を確保するためにも農業に関する講座や静岡の農芸品の講座を開催	企業市町	県の取組と連携		
	農業奨学金の創設	市町 NPO	学生(子ども)や家庭のサポート 子供の貧困化率13.9%の解消と、就農者への導入を目指す 農業高、大学(農学部)などの奨学金の支援(県内に就農した場合は返却不要)を検討		
	農業高校、農林大学校を、先端技術を取り入れるなど、最先端の学校とする、設備投資	市町 企業	ホームページ、インターネットを使っての広報 就職後の展望を明確に広報 農業高校などへの直接の勧誘 ビジネスとしての農業の提示、道筋を立てる		
	農業人口を増やすべく、企業、NPOなどに働きかけ	企業 NPO	農業はきつい、汚いというイメージがある それを打破するPRが必要(高校生などに対して)		
	法人が人材を確保していく支援	学校 行政	教育を通して、積極的に農業体験をすることにより、より身近なものにする	企業	法人代表者は商工会議所に入り横のつながりも大切にする 立ち位置を理解する
	他県で成功事例や県内の増産している商品の生産者たちの事例をとりまとめ、周知する 就職するとき、農業を選択肢に入れてもらうためには、何が足りないのか、どんな支援が必要かリサーチすべき メリットをもっとアピール	農業者	知ってもらうことが一番 情報発信をもっと幅広く実施して欲しい 休耕地を安く貸し出しもっと農業の楽しさを知ってもらおう		
	外国人材の活用を検討 AIに農業技術のノウハウをシステム化して、誰でも農業をできるようにする	JA 個人	外国人材の活用を検討 AIに農業技術のノウハウをシステム化して、誰でも農業をできるようにする		
	外国人の就農のための教育	市町	農業関係のさらなるPR(農業に興味をもたせる)		
	生産品・茶・みかんなどの「ブランド」化	企業他	農業従事者の収入の安定化 リスク回避など		
	土地所有者と借り手希望者との仲介、マッチング	農業 高校	既存の法人等への就職してから新規就農をするにあたっての説明、推進を行う		
	仕事をリタイアされた方等に放棄地を利用するための講座を開催する 県民だよりで発信する	市町	後継者がなくてやめる方と新規の方をつなげる ネットワークづくり		
		企業 個人	農業への就労は遠距離に居住することもあり、通勤が困難で応募や就労を断念する人が多いことから、通勤対策を検討 障害者や高齢者が就労の下支えになる可能性があり、時間常勤務可としてもよいのでは		
担い手の確保、育成に向けた取組	県の農産物の特性に合わせた、技能実習を各農業高校で実施	国	現行制度を充実させた技能実習制度の法律化	JA等	積極的に雇用を増やす

5班 世界水準の農芸品の生産力強化

課題	県が何をする	誰が	県が何をする	誰が	何を
担い手の確保、育成に向けた取組	農業経験者との対話、情報交換、相談の場の設置 経験者と新規就農者とのつながりや農業体験機会の創出や、 生産性の高い(計画を作る)経営ができるよう支援 農業体験者との交流 生産性を上げて時間も含めた利益を考える				
	情報の出し方を考える 独立支援をする	農家等	田畑を開放する 農家で作る料理教室で野菜づくりを教える 独立支援をする(技術等)		
	永続的な就農者を確保するための支援施策を継続していく	市町	認定新規就農者の認定支援 農業委員会との連携	個人 NPO	農業体験を含む心理的環境の整備
若者等の就農	県内の学校における農業体験の推進を補助する	農家	積極的にインターンや体験イベントなどの受入れを 行い、関心を持つ人を広げる	教育 機関	農業に触れられる機会を増やす
	農業に興味をもつ学生に、就農への一歩目を踏み出しやすい 環境づくり 中・高生に農業の可能性を示し、就農への道筋を作る				
	どういった支援があるのか、具体的なものをより多くの人に 知ってもらうために、そういった情報の発信の仕方を見直す	農家	具体的に農業の経験のない人にわかりやすいよう に資金などをもらえたり伝えたりする		
新規就農者の確保 未来人材の育成と準即戦力の確保	農業体験活動をすすめる 10～20歳の農業体験制度の推進	県 市町 農協	準即戦力の確保 技術習得援助		
若者がいきなり農業従事するのは ハードルが高い		市町	いきなり農業をするのは難しいので、まずは週末農 業を進める 農業体験のハードルを下げる		
興味をもたせる、知識の共有	高校生や一般向けへの農業体験、説明会				
農業体験の場をもっと増やす	市町の広報等を通じて、農業体験の場を提供してもらい(元) 農業体験者の知恵知識を教えてください人を募る				
大学生合同企業説明会の利用		JA 農業 法人	大学内での「合同企業説明会」を活用し、「攻め」の 求人を出し、JAや他の農業法人にも積極的に実施		
JAと農家の連携	JAへの就業率を増やすことは比較的容易 高齢家で生産力が低下した農家等にJAの若い担い手の労働 力を投入することで解決する問題も多い 民間の力だけでは、県内全域までカバーするのは難しいため、 県の援助が必要	JA	JAへの就業率を増やすことは比較的容易 高齢家で生産力が低下した農家等にJAの若い担い 手の労働力を投入することで解決する問題も多い 民間の力だけでは、県内全域までカバーするのは 難しいため、県の援助が必要		
農業離れ	農業の良い点、実体験の宣伝をメディアを通して行う	市町	モデル農地の見学、説明を専門が発信する	農家	農地の見学を提供する
後継者不足	農業体験、研修をつくる 新規就農に向けた施策情報をアピール(TV、ネット)	個人 NPO	求人を出す		
人手不足	情報発信として、SNSなどを活用したり、若者がよく利用するサ イト、アプリに広告を入れる	企業	情報発信として、SNSなどを活用したり、若者がよく 利用するサイト、アプリに広告を入れる		
農業労働力不足	国も含め外国人実習生の採用資格を農業法人や農家の人にも 取得できるようにする	JA	協同組合の組織の中で対応し、農家の人が加入し、 組合として支援を積極的にすすめる	農家	実習生の生活管理、書類作成が大変だと思う もっと楽にする
ブランド化と情報発信					
商品のブランド化	後押しをする 生産物の付加価値を高めるような戦術を練り出す 施策のまたがりがあるため、各部局の協力をする	市町	自らの町の特産品をPRする		

5班 世界水準の農芸品の生産力強化

課題	県が何をする	誰が	県が何をする	誰が	何を
商品のブランド化	企業等と協力し、それぞれの役割を明確化し、アピールするとともに、どのような付加価値をつけるのか、農家と相談し方向性を決めるべき				
	静岡駅にある、お茶を飲めるところは、知らない人が多いため宣伝の方法を見直す必要がある 東京にあるアンテナショップは、人気のあるアンテナショップよりかなり地味 たくさんの商品を他県の人、海外の人に知ってもらえるよう、活用方法や手法を検討 マーケットインがうまく機能しているのか どんなものがブランド化しているか見えないので、もっと広めて欲しい 世界基準の農芸品の認定制度 農芸品という言葉も知られていない				
	マーケティング戦略 供給量の一定量化、年間通じて	県 生産者	リーダーシップを取って、研究開発を強化し、生産者が消費者が欲しがっている農産物になるようあらゆる工夫をして売り出す心がけが大切 戦略をしっかり立てる		
	みかん、トマト、いちご等について、品種改良やゲノムの編集、遺伝子組み換えで品質を向上	すべて	みかん、トマト、いちご等について、品種改良やゲノムの編集、遺伝子組み換えで品質を向上		
	他県のブランド商品(例:くまもとトマト、とちおとめイチゴ)がなぜあのように全国ブランドになったのか、その経緯、努力も学習し、県をあげてPRする	JA等	各JA間での特産品(例:島田のハナピラタケ、松崎町のアシタバ)をPRしブランド化する	農家	所属JAの特産品を各自の努力で商品化する
	高糖度トマトなどの研究	市町	生産者を増やし、価格を下げる努力をする		
	お茶の魅力が伝わるようなスペースを作り、他県の人にも利用してもらおう				
	イチゴの紅ほっぺのように、お茶にも名前をつける	商工 会議所	ホテル宿泊者にお茶のおもてなし チェックイン時急須で入れた美味しいお茶を提供し、翌日朝フロントで販売	市町	JR弁天島駅の跡地に静岡の特産品を扱った道の駅のようにする
	県をあげて広報、発信、やり方、情報、観光業、などとのネットワークを作り、発信 駅周辺でのPR(付加価値を明確に)	個人 企業	若い世代に、話題となるような商品を生産、情報の発信 静岡ならではの一品に 現在あるものでも、PRの仕方に変化があるかも		
	品質の維持向上のための研究及びサポート	企業 等	生産物のブランド化(ネーミングも重要)		
	本県、他県を含め、人の多く集まるところに宣伝やそれに関連した施設を作る	農家	品種改良により、より高品質な商品開発をする		
	駅、空港、港(公共施設)にPR商品を出す 世界中の人達に静岡の農芸品を知ってもらうべく、港を利用するなどして外国にも輸出をしていく				
	市場ニーズの調査 世界基準の農芸品の定義付け 情報発信 サポート(補助金等)	JA	農家への研修等 情報発信 指導	農家	高品質の商品作り 収量の確保
	情報発信する	企業	情報発信する 他の県には特別な何かをつくる		

5班 世界水準の農芸品の生産力強化

課題	県が何をする	誰が	県が何をする	誰が	何を
商品のブランド化	急須で飲むお茶の普及活動を				
	食の都事業との連携を取り推進	JA	「FM」を進化させてください	個人	旨いものは地場のものを食す
農業に関する情報の宣伝	コストが掛かるが、農業に関係のない人の目にも付く場所へのパンフレットの配架 就農者を増やすためだけでなく、単純に、生產品等の情報をもっと周知させるべき	農家等	ブランドイメージをつける ブランド宣伝をする		
		企業市町	コストが掛かるが、農業に関係のない人の目にも付く場所へのパンフレットの配架 就農者を増やすためだけでなく、単純に、生產品等の情報をもっと周知させるべき		
先端技術を活用した生産性の向上					
AIの利用	どこまでAIロボットを使うべきか考える 収穫は人の手でやってほしい 教育に使うにしても均一化していいものか	全て	どこまでAIロボットを使うべきか考える 収穫は人の手でやってほしい 教育に使うにしても均一化していいものか		
スマート農業とAI、農業	技術の見える化 開発支援制度の確率	企業	農家の方の技術(知識)と科学技術(メーカーや製造業)を融合、向上、発信 匠の視点を学習システムを使って学習 技術の違う農業にいかにあわせて開発するか		
	新たな技術等を初めて導入することは不安が多いため、数年間は支援をして、推奨例としてどこかの町や商品を特定して実施してみる	JA	新たな技術等を初めて導入することは不安が多いため、数年間は支援をして、推奨例としてどこかの町や商品を特定して実施してみる		
	AOI-PARKには、もっと力を入れるべき				
	静岡県の特徴に合わせたシステム機器の基礎、応用研修 農家の方の負担を減らすためにも生産性を向上させるためにもAIとかロボット開発をもっと頑張してほしい	JA	農家の意見集約、提言、テストの協力	企業	システム機器の開発
農業の生産性向上	技術の見える化(AI学習システム) 知的財産が流出しないように気をつけながら	JA	安全安心、自然環境を守る しっかり収支が合うように、農業としての産業として根付かせるよう努力		
	生産性向上、品質向上に関する研究開発	企業	農業を組織化して、それに必要な人材を集める	個人	個人で起業するにはリスクが大きすぎる 組織に属せば安定化はする
	高齢者の農家に対して農業用ロボットの導入の支援をしていく必要がある 法人化する上でのメリットを伝え様々な経営上のサポートを引き続きしていく	企業	県と連携した農業用ロボットの開発にもっと力を入れる必要がある		
	県内の農業比較は、小規模が多いため、現況作業の身近な改造やロボット(IA)活用すべき				
	企業を支援	企業	限られた土地に1から1.5に変えられるよう商品開発する		
		個人	匠の作業の手順書を作成	企業	自動ロボットの開発
	農家等	機械ロボットを使う 農家のグループ化			
農業法人化の推進					
次代を担う農業経営体の育成(農業の法人化)	農業経営体育成の取組を強化、進化させる	企業	農業という性格上、他産業より永續させる責任があると思うのでその点を留意して欲しい		
	法人化を支援する 面倒な手続きは代行してあげる				
	法人化の手続きの簡略化 法人化へのサポート				

5班 世界水準の農芸品の生産力強化

課題	県が何をする	誰が	県が何をする	誰が	何を	
次代を担う農業経営体の育成(農業の法人化)	法人化した場合のメリット(デメリットも含め)マスメディア化する	JA	先進JAの成功例、ノウハウを他JAと共有化する	農家	農地中間管理事業を活用し、将来性を見極める	
	デメリット、メリットをわかりやすく伝える 金銭面以外も法人化を進める理由、目的を明確にしていく	農業法人	法人化していない農家に対して、実体験を語ること によって情報を広げる			
	人材不足の中で、収量を上げて自給率を高めるために、AI、ICT、ロボットが必要 農産物を確実に上げるため、センサーロボットによる自動化、収穫ロボットが必要 農地の集積、面積拡大すると、AI、ICT、ロボットが使いやすくなる	個人	人材不足の中で、収量を上げて自給率を高めるために、AI、ICT、ロボットが必要 農産物を確実に上げるため、センサーロボットによる自動化、収穫ロボットが必要 農地の集積、面積拡大すると、AI、ICT、ロボットが使いやすくなる			
	810の農業法人は少ないのか 全国的にも静岡が低いのであれば、メリットが伝わっていないため、改善が必要 県とJAの方向性、意見等の協議をして連携が必要	JA	810の農業法人は少ないのか 全国的にも静岡が低いのであれば、メリットが伝わっていないため、改善が必要 県とJAの方向性、意見等の協議をして連携が必要			
	農業コンサルティング推進事業をすすめる	商工会JA	人材育成や専門家との連携、雇用の際のサポート			
	経営に関するフォローとして、農業コンサルティングを増進させる 社労士や計理士をセミナー等に参加し、事業主と一緒に経営を検討することが必要 販売開発は、民間への周知と共同開拓に力を入れる					
その他						
お茶と観光について	「茶の都ミュージアム」「茶草場テラス」などの周辺にある他の観光施設やカフェ、フォトスポットをまとめて情報発信をするなど、スポットづくり					
JAの目的趣旨		企業	静岡県の品を付加価値をつけた商品を開発することが必要			
農業で食べていくのは難しい		市町個人	農産物を直接飲食店に届けるシステムを作る スマホ等でその日にとれた野菜を知らせ、届ける等のネットワークを作る			
有機農業を広める		市町個人	有機農業でも野菜は十分できるので、有機農産物の安心、安全を売りに直接消費者に届けるルートをつくる			
	農業法人は、利益の出るもののみ作るため、県で仕分けができればいい 法人を作るときに研究して、他のところでやらないものをつくる 災害に強く利益ができるように					
	農業法人化されている会社で製造している農作物は利益優先だから利益の出ないものはやらないと思われるため、利益の少ない農作物は県で行う		農作物の製造を分けることができるか			